

Die Eiche

ディ アイヘ
http://www.jdg-chiba.com



Japanisch-Deutsche Gesellschaft
der Präfektur Chiba
〒274-0822 船橋市飯山満町 2-518-1
清和会第2ワールドナッシングホーム内
電話 047-461-9111 Fax 047-461-7010

『エーリッヒ・カウルの日記』を訳し終えて

名誉会長 宗宮 好和

『エーリッヒ・カウルの日記』がようやくこの9月30日千葉県日独協会と習志野市のホームページで同時に公開されることになりました。

一昨年暮れにこの日記を翻訳する会の参加者を募り、昨年1月から金曜日組が、5月からは土曜日組も加わり、それぞれ月2回勉強会を始めました。二人一組になって同じ箇所を訳し、担当の訳は個別に私が添削して返し、主担当が自分の訳を会で発表し、勉強会のあと清書原稿を私に提出するという方法で一年間。年明けには全ページの翻訳が出揃いました。参加した皆さんが熱心で、ドイツ語の実力もあり、毎回和気あいあいと進めることができました。

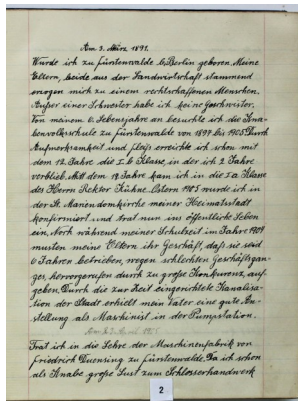
担当者の清書原稿をつなげば翻訳完成というわけにはいきません。全体としての文体上の統一も取らなくてはならないし、何よりも、勉強会では日本語に置きかえただけで何を言っているのか正解をえないままの箇所も多々ありました。幸いその分野に詳しい人が見つかり助けられました。“Schwester(英sister)”が「姉」とわかるまでの話は「注と解説」に書きましたが、カウルが「マックスとモーリッツ」と呼んだ二つの島がどれなのかを知るためについにネット上の傑作『青島物語』の制作者に問い合わせることもしました。最後の校正の段階では本橋緑さんにいろいろとお手伝いいただきました。彼女をはじめお世話になった皆様に感謝申し上げます。

私の友人で東大名誉教授の新田春夫氏が『カウルの日記』の原文を読み、修正が加えられていない100年前の生のドイツ語に関心をもち、教育委員会の承認を得て、ドイツ語史の視点から分析を始めました。カウルの文章には低地ドイツ語の特徴と彼固有の表現等が見られる貴重な資料だとのこと。論文になるのが今から待たれます。

さて、『日記』は1891年3月3日の誕生から男子国民学校時代、機械工としての修行時代、(不況のために) 転々とした工場勤めを回顧する形で始まります。22歳で海軍に入隊し、与えられた任務は「極東の小ドイツ」と呼ばれるドイツの租借地中国膠州湾の青島に駐留する守備軍の交代要員で、「帝国軍艦ヤーグアル」の火夫(ボイラーマン)でした。2年間勤めれば帰国でき兵役も終わるはずでした。軍港ヴィルヘルムスハーフェンを華やかな声援を受けて出航するときには、まさか、5年10か月後に帰国することになるとは思ってもいませんでした。青島までの船旅はまるで観光船の乗客

のような新鮮な驚きの連続です。しかし、世界大戦の勃発とともに、青島での戦争が始まり、敗戦後は捕虜となって未知の国日本に移送されます。日本の自然、なかでも富士山はよほど気に入らしく、長崎に注文した「紋章」(刺繍)のデザインにも取り入れています。

浅草本願寺の東京俘虜収容所に収容され、一年後には新設の習志野俘虜収容所に移されます。本願寺で初めての夜を過ごした朝、出された朝食を見て「日本側の待遇は大変に人道的(human)である」と記しています。また、クリスマスに東北から樺ノ木が届けられたというのも彼にとっては感激でした。習志野に移ってもしばらくは不満のない状態が続きます。講演会があり、広い敷地でスポーツ大会もありました。彼はギターを自作するほどの器用さがあり、上官のために箱や額縁の製作を頼まれることもありました。英語と幾何学を士官から学び、読書にふけることもありました。しかし、深い望郷の念と自由への渴望がたびたび日記に綴られています。すでに帰国予定の2年はとくに過ぎています。帝政の終焉や祖国の敗戦も伝わったでしょう。1919年になると25人もの戦友が死亡したスペインかぜの悲惨さも知ります。ようやく帰国の手はずが整い輸送船「喜福丸」に乗ることになります。途中呼吸器系の病気にかかり死を覚悟するまでに至りますが、幸い、帰港直前に回復します。しかし、出航地のヴィルヘルムスハーフェンに着いたときには想像以上の光景が待っていました。「われわれは多くの船の残骸と不気味な静けさに満ちた港の光景にぞっとした」というのです。読者は想像するしかありませんが、カウルの心境はやはり思い知ることはできません。(エーリッヒ・カウルは1941年2月7日50歳を目前にして亡くなりました。)



生い立ちを記した最初のページ



カウルがデザインした紋章
(習志野市教育委員会提供)

新理事の抱負-理事着任に当たって

当協会に入会させていただき早いもので2年が経ちました。ドイツ料理に関わることができればとの思いが入会のきっかけでしたが、想像以上にドイツの世界が広がり驚いています。以前はドイツやドイツ語に触れる機会はあまりありませんでした。フェアなどでビールやソーセージを目にしたり、テレビの旅番組で映像が流れると懐かしさを感じたものでした。それが今では遠い世界にあったドイツを日常として捉えることができています。隔月で届く「Die Eiche」や様々な行事の案内などからドイツを身近に感じています。残念ながら今はコロナの影響で社会生活が激変し一時ほどではありませんが自粛を強いられています。参加を楽しみにしていた行事は今のところ中止ですし、ドイツへの渡航もままなりません。そんな中でもドイツへの関わりを途絶えたくないというのが今の私の気持ちです。当協会はドイツ軍人追悼慰霊祭をきっかけに設立されたと聞いています。困難な時こそ皆様の力を合わせてドイツとの結びつきを強めていきたいと思い、微力ながらそのお手伝いができれば幸いです。(理事：石元 成子)



ドイツの街紹介 -ハンブルク (Hamburg) -

ドイツ北部のエルベ川沿いに位置するハンブルクはベルリンに次ぐ人口約180万の大都市ですが、緑あふれる港湾都市でもあり、豊かな自然と大都市が融合した「水と緑の都」と言われています。

過去に2年間駐在し、その後2回ほど訪問しましたが、町並みは今も大きく変わっていません。一般的な食料品は日本より安く、スーパー及び伝統ある青空市場で簡単に買い物ができます。

街の中心には19世紀に建てられたネオ・ルネッサンス様式の豪華な市庁舎があり、市の象徴になっています。また、すぐそばには東京ドームの約40倍のアルスター湖があり、その周りは大都会とは思えない自然があふれた住宅街と運河、公園等になっています。

遠い昔の真冬には大きな湖が凍り、氷上は出店と人や車で賑わい、グリューワインを楽しんだ時代がありました。近年は温暖化で凍らないようです。

ハンブルクは北海に注ぐエルベ川の河口から約110キロ遡った位置にあり、欧州第二の国際貿易港を有しています。昔の海上貿易の時代には日本企業はハンブルクを拠点に進出し、次第に南下したそうです。今も歴史的な港湾都市として世界海洋裁判所があります。

この都市の原点と言われる世界遺産の赤レンガ倉庫街は世界最大級と言われ、今もドイツらしい歴史と力強さを感じさせ、お馴染みのハンバーガー発祥の地でもあります。ただし、その一部には近代化の波が押し寄せ、新たなランドマーク「エルブフィルハーモニー」他が建設されています。また、港のそばのフィッシュマルクトは、300年以上前から早朝に魚だけではなく果物、野菜、花、衣類等何でも売っていて競り市も名物です。その他、市内には公営のカジノ場の他、歓楽街で有名なレーパーバーンとビートルズがデビューしたスター・クラブも残っています。

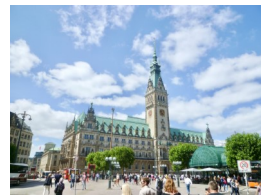
伝統ある港では、歓迎サービスとして川沿いのレストランのフェーハウスから外国大型船の入港の際には声をかけ国旗を掲げ国歌を流すこともあります。その後方に船乗りが長い航海を終えて目にする高い塔を持つ聖ミハエル教会が建っています。

市内には美術館、博物館等が60以上あり、近年は世界最大の鉄道模型のミニチュア・ワンダーランドが人気ですが、その他ではゴシックから現代絵画と彫刻の市立博物館、アールヌーボーコレクションで知られる美術工芸博物館、同市生まれのブラームス記念館等もあります。

自由ハンザ都市の名残から、北のリュベック、南のブレーメンは車で1時間程度の場所に位置しており、リュベック、ツエレ、ハーノーバーにも簡単に移動可能です。

通常のドイツ旅行ではあまり組み込まれることのないハンブルクですが、また機会があれば訪れたい街の一つです。

(常任理事 志賀 久徳)



宮殿のような市庁舎



市民が憩うアルスター湖



住宅街の様子



エルベ川湖畔のハンブルク港
写真奥: エルブフィルハーモニー



Sバーン駅の前に立つ筆者



リュベックのホルステン門

わたしのドイツ語学習法 メディア編① -竹内 優-

今回はこれまで個人的に実践してきたドイツ語学習法の一部をお伝えしました。今回から2回に渡り、ドイツ語学習に使えるメディアの一部を皆さんにご紹介したいと思います。

【アプリ】

まずはお手持ちのiPhoneやスマートフォンなどにダウンロードして使用できるアプリをご紹介します。HelloTalkとTandemはどちらも言語交換プラットフォームで、日本語を学ぶ外国人と外国語を学ぶ日本人がお互いの言葉を教え合いながら交流できます。前者では学習中の言語で文章、写真、音声などをタイムラインに投稿してネイティブに添削してもらうことが可能です。どちらのアプリも個別にメッセージのやりとりができるのでドイツ語ネイティブの友達が欲しい人には特におすすめです。HiNativeはネイティブに語学の質問ができるアプリで、例えば「〇〇は～語で何と言いますか?」「〇〇と〇〇はどう違いますか?」と質問できます。疑問を手取り早く解決したい場合には最適なアプリです。



HelloTalk



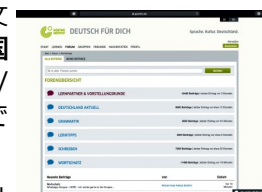
HiNative

【ウェブサイト】

ドイツ語学習サイトのドイツ語やろうぜ! (<https://doitsugo-yarouze.com>) では、テーマ別のドイツ語単語集やドイツ語学習に役立つ情報、文法解説など様々な投稿がアップロードされています。文法についてさらに詳しく知りたい方は、京都大学の原田教授が運営するドイツ語文法 (<https://www.harada.law.kyoto-u.ac.jp/hdg/grammatik.html>) のページもおすすめです。発音、会話、文法、語彙まんべんなく学びたい方は東京外国語大学言語モジュール (<http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/de/>) で効率的に学習できます。



ドイツ語やろうぜ!



DEUTSCH FÜR DICH

ドイツ語で書かれた教材を使用したい方はDeutsche WelleのDEUTSCH LERNEN (<https://www.dw.com/de/deutsch-lernen/s-2055>) でドイツ語コースやリスニング教材、ドラマなど様々なドイツ語学習コンテンツを利用できます。PCやタブレットでドイツ語の電子書籍や映画、朗読などを楽しみたい方はゲーテ・インスティテュートの無料電子図書館オンライン (<https://www.goethe.de/ins/jp/ja/kul/ser/onl.html>) もおすすめです。同じくゲーテから提供されているドイツ語学習コミュニティDEUTSCH FÜR DICH (<https://www.goethe.de/prj/dfd/de/>) では、世界中のドイツ語学習者と分からないところを教え合ったり、ドイツ語教材を利用したりできます。辞書で調べてもどうしても意味がわからない表現があるときにおすすめなのがDeepL (<https://www.deepl.com/ja/translator>) という翻訳サイトです。今年から日本語対応になったのですが、他の翻訳サイトと比べてかなり精度が高いと評判です。自分で作った訳の答え合わせのために本サイトを活用するのも一つの学習手段かもしれません。12月号ではポッドキャスト、YouTubeにフォーカスしたメディア編②をお届けします。

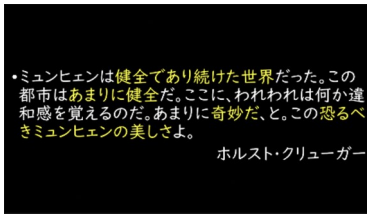
ドイツ語圏文化セミナーに参加して

－「ドイツの今」を実況中継 ドイツ語圏文化セミナー－

公益財団法人日独協会主催によるドイツ語圏文化セミナー【「ドイツの今」を実況中継 ドイツ語圏文化セミナー】に参加しました（8月7日・14日、9月3日、日本時間19:00～21:00）。現地ミュンヘンから、ミュンヘンの歴史と今、バイエルンの食文化やコロナ下での日常等をテーマとした「Zoom」を使ったオンラインセミナーで、講師は同協会開催イベントで大変人気の高い、柳原伸洋先生です（東京女子大学歴史文化専攻教員、アウクスブルク大学客員研究員）。



8月に開催された同セミナー終了後、是非、続きを聞きたいという参加者からの熱い要望があり、急遽、9月に追加開催されました。ミュンヘンから柳原先生もドイツビールを片手に、参加者全員ビデオ・音声オンにしながら、好きな飲み物で乾杯の後、参加者はビデオ・音声オフの状態でも自由に飲食しつつ、ミュンヘンにいる雰囲気を感じながら講義を受けました。質問は、Zoom内のプライベートチャットや、メールで先生に送ると、講義中に先生が回答する形式で行われました。



第1回（8/7）は、日本からミュンヘンへ移動の様子、ミュンヘンの中世から現代まで、オクトーバーフェスト、州によって異なるコロナ対策、食文化等が紹介されました。ミュンヘンを中心に見た南北を逆にした地図（写真）は大変印象的でした。



第2回（8/14）は、ミュンヘンの近代化、プリンツレゲンテール（ルードヴィヒ2世死後、バイエルンを統治した摂政ルイトポルトにちなんで名づけられたケーキ）、ヴァイスヴルスト（バイエルン州の伝統的な白ソーセージ）、ヒトラーの住居、テュルクハイム強制収容所、ウルムの町、躰きの石記念碑等が紹介されました。



第3回（9/3）は、ナチスドイツ、ヒトラーとミュンヘン、記念碑、ウィーン、コロナ対策、ミュンヘンのカフェ、バイエルンとオーストリアの因縁の歴史、ヒトラーとの関連等が紹介されました。

写真：ミュンヘン大学近くの記念碑「記憶の傷跡」：銃撃があった時に付いた穴で、「ミュンヘンは記憶を忘れ過ぎ」ということに対し批判的な芸術家達が作ったもの。写真右側の地面についた跡は、ミュンヘン観光地「オデオン広場」で、1923年のヒトラー蜂起の時に、ヒトラー達がここを歩いた跡。「ここにはナチズムの記憶が刻まれている」ということを表した芸術作品・記念碑です。続けて、ミュンヘン交通局が作ったマスクをつけたヒーロー（一番左端の看板）等が紹介されました。



セミナー後、自由参加によるフリー雑談会が行われ、先生と十数名の参加者との熱いトークで終了しました。

コロナ禍で多くのイベントが中止・延期となる中、どの様な形でイベントが行われているのかが出て、大変勉強になりました。今回のセミナーは、柳原先生が多くの地を訪れて収集された貴重な情報、公益財団法人日独協会スタッフの皆様のご準備によるもので、是非続編が開催されることを望みます。最後になりますが、記事作成にあたり、柳原先生、同協会スタッフの皆様、お忙しい中多大なご協力をいただき、改めて御礼申し上げます。

（※画像提供：公益財団法人日独協会）

（常任理事 本間 美里）

人生を決定づけたドイツ留学



ドイツと私 - 植松 健

1979年度後期から1年間、私は三十年戦争終結の地、西独（当時）北西部の大学都市ミュンスターで留学する機会に恵まれました。

Westfälische Wilhelms-Universität Münsterは、200年の歴史と伝統を誇る、学生に人気の高い総合大学で、当時のミュンスター市は「石を投げれば学生に当たる」ほど正真正銘のStudentenstadtでした。満を持して臨んだ私の人生最初のドイツでの講義は、皇帝ウィルヘルム2世の居城であったSchloß Münsterの城内でした。まさに一生忘れ得ない素晴らしい青春の1ページ・・・となる筈でしたが、実は教授の言葉が一切理解できませんでした。頭の中は真っ白、焦れば焦るほどドイツ語は頭に入らず、聞き取れた言葉は「Guten Tag」と「Auf Wiedersehen」の二つだけでした。



Münster大学構内（2005/6月）

この屈辱経験が逆に私の闘志に火をつけ、その日から猛（モウブッフeln）勉強が始まりました。当時私の身分は、単なる語学研修生ではない歴とした学部生。当然クラスにはドイツ語がネイティブな学生しかおらず、とにかく彼らの何十倍いえ何百倍の努力をしなければ、スタートラインにすら立てないという厳しい状況にありました。



40年ぶりの旧友との再会、Wien（2019/6月）

私はとあるドイツ・カトリック系学生の団体(Studenten-verbinding)所有の男子寮に寄宿していましたが、人生最初の海外生活そして異国の地での同年代のドイツ人学生との共同生活(Gemeinschaft)は、毎日が驚きと発見の連続でした。

中でも「Die Gedanken sind frei!」の精神は強烈でした。ドイツでは、何よりも「個人の意見」が尊重されるということは頭では理解できていましたが、実際新一年生が相手が年上の先輩であろうが、授業中どんな有名な教授の前であろうが、常に物怖じせず正々堂々と持論を展開する姿には、憧れの念すら抱きました。

次に、「Feierabend」という不思議な言葉です。留学当初私は四六時中だらだらとただ机に向かっていただけでしたが、ある日寮の仲間「お前は読書をするためにドイツに来たのか？」と「an」と「aus」の切り替えの大切さを力説されました。そこで私は彼らに倣い、19時を「Feierabend」と決めて、それまでは今まで以上に必死で勉強する代わりにそれ以降は一切勉強はしないことにしました。以後、生涯の友となる彼らと毎晩、大いに議論し合い、笑い、歌い、そして飲み明かしました。



奥様アネッテさんと（2020/7月）

Ergo bibamus!

1年間という短い期間でしたが、この貴重な経験は私の人生の大切な宝物です。

思えば高校生の時読んだ森鷗外「舞姫」が私のドイツとの最初の出会いでした。

私の妻もエリスと同じドイツ人ですが、39年前主人公の選択とは逆に、周囲の反対に耳を貸さず、哀れな外国人を捨てなかった彼女には、心から感謝しています。

日独交流150周年記念菩提樹

その後の成長 No.1

-Die Linden in Narashino-

2011年に植樹された菩提樹のその後の成長を追う企画の第1回目は習志野市にある菩提樹です。

JR津田沼駅南口にある津田沼公園（モリシア前）には県内最多の5本の記念菩提樹が育っています。当初は市内複数個所に植樹される予定でしたが、その年に発生した東日本大震災の影響を受け、津田沼公園に集約されたそうです。

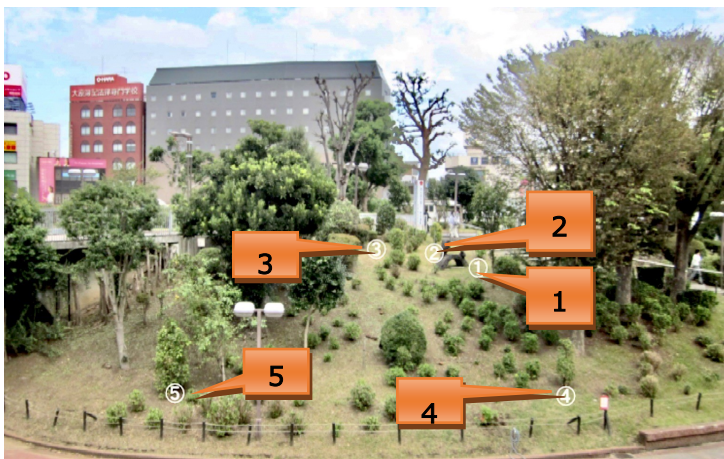


さて皆さんは菩提樹がどのような木をご存知ですか？色々な木が育つ公園の中で、特定の木を探すのは難しいものですが、幸いここ津田沼公園では、駅からモリシア入口に降りる階段途中の右手にある菩提樹（写真①）に、添付写真の看板があります。



まず①の木を見つけ、葉の特徴をよく見てください。手のひらほどの大きさ、ハートの形、そしてその縁はギザギザです。よく見ると左右の形が微妙に異なり、愛嬌のあるハート形をしています。目が慣れてくれば、その周りにある2本の木（②③）もわかるようになります。この①～③は短く刈り込まれているので高さは1m位。残り2本（④⑤）はモリシア前の広場から観察できます。高さは3mほどです。普段は何気なく通り過ぎる公園ですが、ぜひ宝探しをするような感覚で探してみてくださいね。

（常任理事：本橋 緑）



JR津田沼駅南口 モリシア側から撮影（2019/10/7）

●番号はHPに掲載した写真の番号と一致しています。

http://www.jdg-chiba.com/about/150th_shokujyuu-hp_koukai.html

●今後も北村侑三郎理事が5年前から自発的に行われた巡回報告と写真を参考に、菩提樹の近況報告をお届けします。

書籍/Buch

「旧ドイツ領全史」とあり、何か歴史的な回顧主義的な印象を持たれるかと思いますが、その趣旨は、全く異なります。即ち、「国」という範疇での歴史記述には、抜け漏れがあるのではない、そもそも「国」という概念もナポレオンの欧州制覇後に各国で覚醒された「国民意識」に過ぎず、世紀のドイツ騎士団の東方政策など広く従来の「国粋」でとらわれない歴史感で捉えようとしています。東プロイセン、西プロイセン、シュレージエン、ポーゼン、ヒンターポメルン、北シュレスヴィヒ、エルザス-ロートリンゲン、オイペンをフォーカスして歴史的にいかによりドイツ的な要素を歴史上留意すべきか詳細に記述されています。- ¥3,630-, 463ページ
アマゾン（常任理事：勝見 浩明）



今後の予定

【オンラインドイツ語講習会】

10月31日から毎週土曜日19時30分～21時まで、6回にわたりドイツ語講習会を開催します。今年は新型コロナウィルスのため、対面での実施が難しいことから、オンラインにて行う事になりました。「Zoom」というオンラインミーティングツールを使用します。

講師は、2014年および2018年の講習会も担当して下さった岡村 三郎先生（当協会理事・早稲田大学名誉教授）です。参加者と十分にコミュニケーションをとりながら、大人向けの童話を読み解いていく予定です。オンライン式ではありますが、できるだけ相互にやり取りがある双方型の講習会を目指しています。

当協会でも新型コロナウィルスの影響で各種イベントの開催を見送らざるを得ない状況です。その中で今出来る事を考え、オンラインドイツ語講習会を企画しました。協会初の試みですが、楽しい講習会になるように現在準備を進めています。今まで講習会に参加されていた方はもちろん、オンラインという利点をいかし、遠方の方や会場へのお出かけが難しかった方など、多くの皆さまの参加をお待ちしています。（ドイツ語講習会担当：本間 実里、本橋 緑（記））

●開催内容詳細は、同封の案内をご覧ください。

【運営委員会】

9月、10月度の合併会議となります。

日時： 10月10日

時間： 12:00-15:00

場所： 船橋市中央公民館 第6集会室

会員情報

新人会員 植松 アネッテ 松戸市

法人会員 医療法人 同和会 千葉病院、社会福祉法人 清和会、(株)京葉ビル管理、(株)和幸電気工事

編集後記

今年は、ドイツ統一30周年記念（1990/10/3）にあたります。当時の国際情勢は、現代とは全く異なり、ゴルバチョフによる新思考外交、情報公開グラスノスチにより東欧圏の民主化の動きが、東ドイツにも影響を与え、硬直した東ドイツ政権に対して、民主化の動きが活発となり、統一の直前、1990/9/13には、ドイツ最終規定条約をドイツ占領4か国と当時の東西ドイツで確定しました。ドイツの主権の完全回復、ロシア軍の撤退、ポーランドとの国境の最終確定が行われ、想像すらしていなかったドイツ統一が実現されました。この間のドイツ連邦統計局が興味深い東西比較データをアップしました。関心ありの方はどうぞ。 <https://www.destatis.de/DE/Themen/Querschnitt/Deutsche-Einheit/Downloads/dossier-30-jahre-deutsche-einheit.html>（勝見 浩明）

Statistik Dossier
30 Jahre Deutsche Einheit

